私の開拓酪農の反省

（北海道）興部地方連盟・沙留酪青研
吉山訓夫

この記録は、北日本酪農青年研究連盟の研究発表会の席上発表されたもので、同君の旺盛なる研究心によつて昭和二十年以来、遠く大阪より本道に入植し、今日では立派な酪農経営をやつておられるが、これに当つては自給飼料の生産に全力をつくし、乳牛八頭までも飼育し、住宅、畜舎、農具も完成し、更に精進を続けておられるなど開拓農家の模範であると思います。同君の御努力に深い敬意を表すると共に全国の同志の方々に御紹介いたします。

（編集部）

零細酪農への反省

私は昭和二十年に戦災都市大阪から北海道集団入植者の一人として、父母とともに紋別郡興部町字沙留の現在地に入植しました。翌二十一年から文字通りの開拓に従事したのですが、たまたま冬の造材山で父が不慮の外傷に遭い当時十七歳であつた私がそれから父母に代つてすべてをやらねばならない羽目に陥つたわけです。痩馬に鞭打つという言葉がありますが、慣れないプラウに引きずられ、手にマメをつくつて鍬を振い、汗と涙の毎日が連続しました。今になつてそうした苦闘の過去を想い出す度に感慨無量のものがあります。

私が初めて乳牛を導入したのは昭和二十一年五月で、生後間もない仔牛を買つて育成したのが酪農の始まりです。その牛が二十三年の八月に分娩して、いよいよ搾乳が始つたのでありますが、一頭の乳代収入は知れたもので、同じ手間をかけるのなら二頭にしようというので、同年更に二歳牛を買いました。

その後末開地の開墾と、芋と雑穀作りに専念してきましたが、昭和二十五年から冷害凶作が容赦なく我々の零細な畑作営農を根本からくつがえしてしまいました。とくにオホーツク沿岸の重粘土地の被害は想像以上でたちまち四〇万円余の負債の下敷きになつて離農者が続出しました。そこで農協指導者達は口を揃えて酪農を奨励し、酪農によつて立直るべきであると強調したが、しかし若い私の頭脳で本当に牛を飼つて儲かるだろうか。現在の私の零細酪農が儲かつているだろうか。いろいろと反省して見ました。いろいろな角度から検討もしてみました。考えて考え抜いた結果やはり西紋地区の営農体型は酪農以外に道がないという結論に達し、父とも相談して昭和二十九年から我家の経営立直しを始めたのであります。

作付の単純化

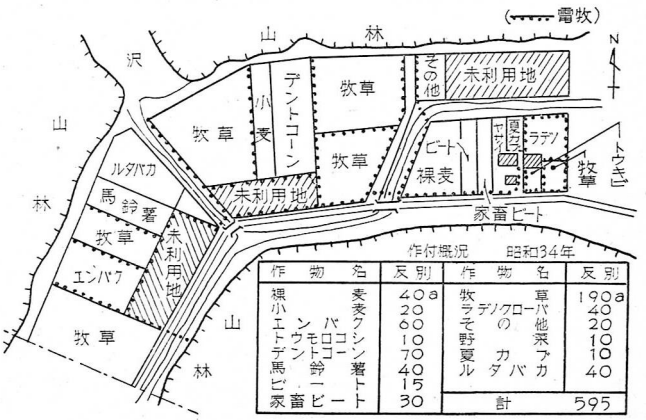
そこでまず第一に、興部酪農のホープ近藤梅夫さんの経営をモデルに、五年輪作を計画して、作付の単純化をはかりました。労力の節約を考えて大々的電牧利用をしました。高蛋白の牧草としてラデノクロバーを重点的に取入れました。近藤さんの直似をして麦の密条播も実行しました。指導員、諸先輩の指導をうけて根菜多収穫も試みができました。デントコーンのMCP除草も試みました。経済検定も

第1表—A

経営概況（昭和34年）

1 土地		
耕地	5.95 ha	
採草放牧地	3.00	
山林	10.15	
宅地	0.20	
合計	19.30	
2 家族	8人	
労働能力	2.3人	
3 家畜		
乳牛	8頭	
搾乳牛	7頭	
育成牛	1頭	
耕馬	1頭	
緬羊	1頭	
ニワトリ	10羽	
4 施設		
住宅（木造）	25坪	
畜舎（〃）	35坪	
倉庫（〃）	5坪	
鶏舎（木造）	5坪	
サイロ（ブロック9尺×20尺）	1基	
（コンクリート8尺×12尺）	1基	
尿溜（8尺×4尺）	1基	
堆肥場	12坪	
5 農機具		
発動機	（クボタ5HP）	1
カッター	（北農式）	1
脱穀機	（渡辺式）	1
グラインダー	（遠藤式）	1
デスクハロー		1
カルチペーター		1
尿撒布機		1
畜力肥料播機	（白川式）	1
プラウ	(1.7 / 2.0 畑)	2
馬車		1
馬橇		1
馬鈴薯掘取機		¼
動力噴霧機		¼

第1表—B　昭和34年耕地図並び作付概況



作付概況　昭和34年

作物名	反別	作物名	反別
裸麦	40a	牧草	190a
小麦	20	ラデノクローバ	40
エンバク	60	その他	20
トウモロコシ	10	野菜	10
デントコーン	70	夏カブ	10
馬鈴薯	40	ルダバカ	40
ビート	15		
家畜ビート	30	計	595

やっています。そして三十三年には年次計画を樹て、本年はその第二年目であります。

本年度は成牛七頭、生産乳量一九四、五石（自家消費を含む）一頭当り約二八石であります。現在の経営概況は、第一表A、耕地ならびに作付概況は第一表Bの通りであります。年次別家畜と飼料作物作付状況は第二表の通りで、零細だつた二十九年から現在までの乳量推移は第三表A、B、B¹、二十九年から三十四年までの年次別酪農収入推移は第四表、又、現在実施している飼料給与は第五表のようになつています。更に二十九年、三十二年、三十四年収支比較は第六表の通りになつております。

二五〇石を目標に

以上が私の歩んで参りました開拓酪農、経営の経過でありますが、開拓当時の苦闘した頃はただ単なる牛飼いであり、苦しみが大で成果が挙がらない、冷害に対してきわめて不安定だつた経営から、乳牛数を増加し、飼料畑を改良し、酪農に重点を置いて計画的に努力を続けることによつて現在の姿まで漕ぎつけることができました。

今後は更に乳牛の集約管理を中心として、頭数は搾乳牛一〇頭迄増加し、乳

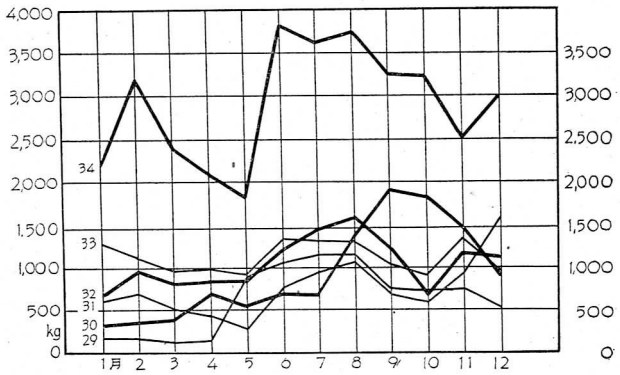
第2表　年次別家畜及び飼料作付状況

年次	家畜 成牛	育成牛	耕馬	緬羊	ニワトリ	飼料作物 牧草	デントコーン	根菜類	その他	計	畑耕地対比
	頭	頭	頭	頭	羽	アール	アール	アール	アール	アール	%
昭和29年	2	1	2	3	10	75	85	10	77	247	41.6
30	3	—	2	3	15	85	80	15	85	265	44.6
31	4	—	2	3	15	65	90	30	85	270	45.5
32	4	—	1	3	10	120	70	60	85	335	56.3
33	5	2	1	3	10	165	100	70	40	375	63.1
34	7	1	1	1	10	230	70	80	30	410	69.0

第3表—A　年次別乳量表（29年～34年）

年次	乳量	乳量	年次	乳量	乳量
昭和29年	7,578 kg	42.1 石	昭和32年	12,472 kg	66.3 石
30	11,105	61.7	33	13,404	74.5
31	9,244	51.4	34	35,013	194.5

第3表—B　年次別毎月乳量（29年～34年）



第3表—B¹　年次別毎月乳量表

年次＼月別	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	合計
	kg	kg	kg	kg	kg	kg	kg	kg	kg	kg	kg	kg	kg
昭和29年	180	172	156	160	1,872	1,056	1,064	1,160	737	726	740	560	7,578
30	268	280	325	712	520	720	704	1,352	1,916	1,876	1,488	944	11,105
31	604	692	536	444	288	748	968	1,059	724	624	980	1,576	9,243
32	616	956	772	848	856	1,192	1,440	1,600	1,224	660	1,188	1,120	12,472
33	1,276	1,120	960	980	880	1,320	1,308	1,312	1,016	920	1,368	944	13,404
34	2,150	3,200	2,400	2,100	1,850	3,858	3,645	3,760	3,280	3,250	2,520	推 3,000	35,013

第4表　年次別酪農収入の推移

種別＼年次別	農業粗収入	酪農部門収入 収入計	牛乳 総乳量	販売乳量	乳代	乳量前年比	個体売却代	農業収入対比
	円	円	kg	kg	円	%	円	%
昭和29年	284,060	136,060	7,578	6,678	133,560	100	2,500	47.9
30	319,250	218,000	11,105	10,525	210,500	146	7,500	68.3
31	279,660	183,260	9,243	8,663	173,260	122	10,000	65.5
32	343,740	245,340	12,472	11,892	237,840	164	7,500	71.3
33	368,780	296,780	13,404	11,964	239,280	177	57,500	80.3
34	726,760	692,260	35,013	34,113	682,260	461	10,000	95.3

第5表　昭和34年飼料給与表

給与飼料名	給与日数	飼料総所要量	同左原料総量	反収	所要面積	F U	DTP
	日	kg	kg	kg	アール		kg
デントコーンサイレージ	150	23,250	29,000	4,500	10	3,320	133
牧草サイレージ	150	23,250	33,500	6,000	56	3,875	388
根菜トップサイレージ	50	7,750	11,500	1,500	80	1,292	129
家畜ビート	100	15,500	15,500	5,200	30	1,722	78
ルタバガ	140	21,700	21,700	5,500	40	2,170	87
乾牧草	220	7,700	38,500	5,000	77	3,347	318
放牧	130	27,300	27,300	7,000	40	3,412	444
夏カブ	30	4,650	4,650	4,700	10	372	19
燕麦	140	500	500	280	36	417	38
乳牛配合飼料	365	2,400	2,400	—	—	2,182	415
亜麻仁粕	150	500	500	—	—	500	140
合計	—	—	—	—	—	22,609	2,189

輪作式

一年	二年	三年	四年	五年
麦類	牧草	牧草	牧草	根菜・デントコーン

本年度作業時間

起床	4時30分	昼食	11時 0分	夕食	6時 0分
搾乳	4時45分	放牧	12時 0分	牛舎清掃	6時30分
朝食	6時 0分	農作業	12時30分	雑用	
放牧	7時 0分	搾乳	4時30分	作業終了	7時30分
農作業	7時15分	放牧	5時30分		

量は二五〇石を目標にし、より安定した経営を築きたいと考えています。取敢えず三十五年度は販売作物を削減し、単純化してその分を飼料作物に切り替えたい。又牧草地を保護し反収をより多くするために小型エンジンモーターを導入し、集約化ということで、ある程度草刈り酪農を試みたいと考えています。目標は六反一頭の計画を近い将来実現したいと思います。

研究発表ということでなく、開拓者としての私の歩んできた経営内容を率直に発表した次第であります。

（北海道紋別郡興部町住吉一区）

第6表　現金収支表（29年　32年　34年）

		昭和29年	昭和32年	昭和34年
		円	円	円
農業収入	植産収入	148,000	98,400	34,500
	畜産収入	136,060	245,340	692,260
	その他	—	—	—
	計	284,060	343,740	726,760
農業支出	肥料費	30,000	38,000	25,000
	飼料費	20,000	58,500	96,500
	養畜費	12,500	25,000	47,500
	種苗費	10,000	14,000	15,000
	農具費	4,000	5,000	5,000
	建物費	3,500	3,500	3,600
	農薬費	3,500	3,000	1,500
	借賃料金	—	—	8,500
	動力光熱費	4,500	4,200	3,800
	諸材料費	3,800	3,500	2,300
	農業衣料費	3,500	4,500	4,500
	加工原料費	5,000	5,000	5,000
	農業雑費	5,000	5,000	5,000
	計	105,300	159,200	223,200
農業所得		178,760	174,540	503,560
農外所得		80,000	80,000	60,000
農家所得		258,760	254,540	563,560
租税公課		35,000	35,000	55,000
税引所得額		223,760	219,540	508,560
家計費		180,000	230,000	240,000
農家余剰		43,760	10,460	268,560